

2020 年度

北九州市立大学 FD 活動報告書

北九州市立大学 FD 委員会

2020 年度 FD 活動報告書

目次

1. はじめに	1
2. FD 研修報告	
(1) 授業における感染予防対策	3
(2) ハイブリッド型授業の実地研修	15
(3) FD 研修及び危機管理研修	19
3. 授業のピアレビュー報告	
(1) 授業のピアレビュー概要	27
(2) 2020 年度ピアレビュー実施状況	27
(3) 各部局の取組状況	28
4. FD 委員会について	
(1) 活動一覧	49
(2) 委員構成	50
(3) 委員会議事録	50

※Web ページ掲載にあたって原本から一部削除した頁があります

1. はじめに

はじめに

副学長（教育・FD担当）
FD委員会委員長 柳井 雅人

2020年度は新型コロナウイルスの蔓延に振り回された1年であった。1学期に対面で実施予定であった講義、演習、実習、実験は、開始時期を5月まで延期し、授業開始後も一部を除き遠隔での実施となった。2学期になり、対面授業の比率は40%を下回ったが、1、2年生の演習系科目やホームルームを中心とした「フォロー科目」を設定し、学生の学習支援を継続した。ここでの感染防止対策等の経験が、次年度の90%を超える対面授業の実施へと繋がっていくこととなったのである。

本学においては学部や組織の創意工夫を重視した「ボトムアップ型」という特色あるFD活動を推進し、認証評価や法人評価で高い評価を受けてきたところである。ここでは、FD（授業改善）活動が、教育の質的改善と質の高い人材育成を行うための重要なツールであるという認識がある。その手法について可視化するとともに、FDの成果を教職員全体で共有しながら、実践的に活用していくものにしていく必要がある。つまりこの活動自体が内部質保証を高度に保つための重要な作業となっているのである。

この考え方に基づくFD研修も、コロナ対策を受けて、遠隔授業の確実な実施法、限られた予算の中での創意工夫などを中心として行うこととなった。大変な時期に研修を引き受けていただいたマネジメント研究科教員と経済学部教員には大変感謝申し上げたい。また、次年度のFD研修の高度化に向け、FD活動を活発に行っている愛媛大学から中井俊樹先生をFDアドバイザーとして就任していただくことを打診し、21年度よりご指導いただくこととなった。

授業評価アンケートについては、新型コロナの蔓延以前に、電子化を推し進めていたことが幸いした。Formsを活用することにより、遠隔操作で入力できる体制を整えていたために、アンケートを実施できたことは、その継続性を保持することにつながり、大変良かったように思われる。

しかし、本学におけるFD活動は曲がり角に来ていることも事実である。教職員は内発的にFD活動の必要性を感じて、主体的・自律的に取り組み、参画すべきであるという考え方が、十分浸透しているとは言い難い現状となっている。近年、学部からのFD研修の提案数が減少していることも気がかりである。

大学の組織体制としては教育改革推進室を軸として、IR室の整備やアセスメントプランの策定等が進展しつつあり、これを土台として教育現場の質的改善と向上をめざすサイクルが出来上がっている。教育の質的改善を図るために、教職員の認識が一致するよう、FD活動を一層深めていく必要がある。

最後に、長年にわたり熱心なFD活動へのご協力を賜ってきた、中溝幸夫先生にこの場を借りて、厚く御礼申し上げたい。

2. FD 研修報告

(1) 授業における感染予防対策

- 日 時 : 2020年4月10日(金) 10:30~12:00
- 場 所 : Teamsによるライブ配信 ※後日オンデマンド配信
- 主 催 : FD委員会

■ 研修の概要 :

大学として新年度を始めるにあたり、学生の健康と安全を確保する教育環境を提供するため、教職員は新型コロナウイルスに対する正しい知識を持ち、学内生活における感染予防に全員で取り組む必要があった。そこで全学FD必修研修として、松尾太加志学長による、コロナ禍における本学の授業対応基本方針の説明、および授業等における感染予防対策についての講習会を実施した。なお、研修はオンラインによるライブ配信にて行い、後日オンデマンド配信も行った。

■ プログラム

1	講習会	松尾 太加志 学長
2	質疑応答	1の内容について

- ライブ視聴者数 : 219名 / オンデマンド視聴者数 : 9名 (合計 228名)

(内訳)

学部等	ライブ配信視聴	オンデマンド視聴
外国語学部	30名	2名
経済学部	19名	1名
文学部	30名	0名
法学部	26名	1名
地域戦略研究所	7名	0名
国際教育交流センター	1名	0名
地域共生教育センター	0名	0名
情報総合センター	1名	0名
大学院マネジメント研究科	9名	0名
基盤教育センター(北方)	24名	0名
基盤教育センター(ひびきの)	9名	0名
エネルギー循環化学科	8名	2名
機械システム工学科	13名	0名

情報システム工学科	13名	0名
建築デザイン学科	11名	0名
環境生命工学科	9名	1名
環境技術研究所	1名	2名
その他（学長、特任教員）	8名	0名

(2) ハイブリッド型授業の現地研修

- 日 時：2020年9月24日（木）13：30～15：00
- 場 所：北方キャンパス 本館C-301教室、D-301教室、B-304教室
※後日オンデマンド配信
- 主 催：FD委員会
- 研修の概要：

本研修は、2学期の対面授業実施にあたり、ハイブリッド型授業の実施方法を知ることがを目的として開催された。まずは柳井雅人副学長よりハイブリッド型授業についての概要を説明いただき、その後、講義型授業と演習型授業それぞれの実施方法についての説明を行った。

複数教室での対面授業を想定した講義型授業の実施方法については、基盤教育センター浅羽修丈教授に説明いただき、対面授業と遠隔授業の併用を想定した演習型授業の実施については、経済学部齋藤朗宏准教授に説明いただいた。

研修参加については感染防止のため人数を制限し、各学部・学科等にて伝達研修をお願いした。また、研修の一部を撮影し、資料と共に後日オンデマンド配信を行った。

■ プログラム

1	ハイブリッド型授業の概要	柳井 雅人 副学長（経済学部 教授 FD委員長）
2	講義型授業の実施方法について	浅羽 修丈（基盤教育センター 教授）
3	演習型授業の実施方法について	齋藤 朗宏（経済学部 准教授）

- 参加者数：22名（うち職員2名）／オンデマンド視聴者数：61名（合計83名）

※代表者のみ参加

（内訳）

外国語学部	4名
経済学部	4名
文学部	3名
法学部	6名
地域戦略研究所	1名
基盤教育センター	1名
特任教員	1名
学術振興課	2名

(3) 2020年度FD研修及び危機管理研修

- 日 時：2020年12月23日（水）13：00～14：00
- 場 所：北方キャンパス 本館A-101教室 / Teamsにてライブ配信
※後日オンデマンド配信
- 主 催：危機管理委員会、FD委員会
- 研修の概要：

本研修では、新型コロナウイルス感染症の予防を推進する観点から、本学の感染症対策アドバイザーである産業医科大学清水少一先生をお招きし、教職員に対して、同感染症の症状・特徴・その後の治療、さらに、感染予防の留意点等を解説していただいた。また、講演後は事前に募った教職員からの質問について回答いただいた。

なお、本研修は全学FD必修研修として、リアルタイムでのライブ配信およびオンデマンド配信も行った。

■ プログラム

1	はじめに	柳井 雅人 副学長（経済学部 教授 FD委員長）
2	新型コロナウイルス感染症について	清水 少一（産業医科大学医学部免疫学・寄生虫学講師） 北九州市立大学新型コロナウイルス感染症対策アドバイザー
3	教職員の質問に対する回答	清水 少一（感染症対策アドバイザー） 柳井 雅人 副学長（経済学部 教授 FD委員長） 高橋 衛（法学部 教授 教務部長 FD副委員長） 今泉 恵子（法学部 教授 学生部長） 田上 裕之（事務局長）

- 対面・オンライン参加者数：191名／オンデマンド視聴者数：54名（合計245名）

（内訳）

学部等	対面・オンライン参加者	オンデマンド視聴
外国語学部	29名	5名
経済学部	18名	5名
文学部	24名	5名
法学部	20名	6名
地域戦略研究所	6名	0名
国際教育交流センター	3名	0名
地域共生教育センター	0名	1名
情報総合センター	1名	0名
大学院マネジメント研究科	6名	1名

基盤教育センター（北方）	24名	2名
基盤教育センター（ひびきの）	7名	3名
エネルギー循環化学科	10名	5名
機械システム工学科	12名	0名
情報システム工学科	8名	6名
建築デザイン学科	11名	1名
環境生命工学科	7名	5名
環境技術研究所	0名	4名
その他（学長、特任教員）	5名	6名

3. 授業のピアレビュー報告

(1) 概要

以下に示す授業のピアレビュー実施状況と報告は、今年度における各部局各学科等で行われたピアレビュー活動の報告である。“授業のピアレビュー”活動は、教員相互の授業公開・参観・授業改善のためのミーティングを含んでいる。

今年度においては、遠隔授業が導入されたことにより、例年になくオンデマンド配信の授業を対象にしたピアレビュー活動も実施された。

(2) 実施状況

部局		実施授業回数
外国語学部	英米学科	7
	中国学科	1
	国際関係学科	2
経済学部	経済学科	3
	経営情報学科	
文学部	比較文化学科	3
	人間関係学科	1
法学部	法律学科	1
	政策科学科	1
地域創生学群	地域創生学類	2
国際環境工学部	エネルギー循環化学科	3
	機械システム工学科	12
	情報システム工学科	7
	建築デザイン学科	2
	環境生命工学科	3
基盤教育センター	教養教育部門	1
	語学教育部門	5
	ひびきの分室	5
マネジメント研究科		6
社会システム研究科		1
法学研究科		1
合計		67

(3) 各部局の取組状況

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	外国語学部	学科等	英米学科
--------	-----	-------	-----	------

2. 部局の実施方針、方法

各教員が学期に1度、お互いの授業を見学しあうピア・レビューを実施する。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	Travel Cultures	1	113	11			
2	English for Core Program	2	140	12			
3	社会システム総合概論	1	12	13			
4	経済学部インタビュー動画			14			
5	Language Teaching	3	41	15			
6	Reading and Discussion II	1	12	16			
7	マネジメント研究科インタビュー動画			17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

事前事後学習に十分に配慮して授業が実施されていた。話し方が工夫されており、オンデマンド方式の授業がライブ授業のように感じられた。The examples were interesting and informative. 冒頭の質疑応答の時間が参考になった。I liked the use of the active demonstration videos with other materials. The students delivered their messages in a fluent, enthusiastic and objective manner.

5. 成果と課題

新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来のような対面式でのピアレビューが困難であったが、ライブ方式やオンデマンド方式により有意義なピアレビューが行われた。新しい授業方式の導入と活用に関わる教員間の意見交換・情報交換の機会として、英米学科のピアレビューは大きな成果をあげたと言える。来年度以降も継続していきたい。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	外国語学部	学科等	中国学科
--------	-----	-------	-----	------

2. 部局の実施方針、方法

中国学科の教員数の少ないため、ピアレビューは年1回（通常は2学期）実施することとなっている。基本的に、①手を挙げる教員が実施授業を決める；②FD委員をはじめ、学科長及び学科教員が参加する；③FD委員が作成した報告書を学科会議で報告する。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	中国語中級総合Ⅱ	3	18	11			
2				12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

- ・教科書をベースに、理解に必要な背景知識を紹介したり、既習文法知識との関連づけさせたり、対面式授業に劣らないクオリティの高い、分かりやすい授業であった。
- ・受講生の学習意欲を刺激し、学習効果を高めるための工夫（イラスト、音声、動画の活用など）が必要。

5. 成果と課題

- ・ハイブリッドという新しい授業形態を見学することができ、見習うことが多かった。
- ・双方向的な授業の実施について、学科全体で模索する必要がある。
- ・コロナ禍の影響で、ピアレビューの結果についてメール会議で意見及び情報交換を行った。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	外国語学部	学科等	国際関係学科
---------------	-----	-------	-----	--------

2. 部局の実施方針、方法

本年度は、遠隔授業というやや特殊な課題に臨んだ。まず、新任教員が2人加わったが、そのうち1人のオンデマンド講義に対してピアレビューを実施することになった。ピアレビューの対象授業は、全教員が分担するオムニバス形式の必修科目「国際関係概論」にした。そして、2学期には、別途にピアレビューは実施せずに、学期が始まる直前に、「遠隔講義の質向上のために」とのFD討論会を学科レベルで開催し、意見交換及び情報共有を図った。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	国際関係概論	5	87	11			
2	FD討論会：遠隔講義の質向上のために	12		12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

国際関係概論のオンデマンド講義を対象としたピアレビューでは、かかる動画に対する評価とともに、動画を用いた授業の質向上に向けた提言が行われた。FD討論会「遠隔講義の質向上のために」では、全教員が2020年度1学期の経験を踏まえて事前に提出した報告書を土台に、オンデマンド方式の講義を質的に向上するうえで必要な具体的な提言および意見交換が行われ、なお、かかる情報を共有した。

5. 成果と課題

新任教員の講義に対するピアレビューの実施は、かかる授業の質的な向上につながるだけでなく、今後学科授業体制全体のバランスを取るうえでも役立った。ただし、オンデマンド講義を対象にせざるを得なかった事情もあって、かかる臨場感を味わうには限界があった。2学期には別途にピアレビューは実施せずに、遠隔授業の質向上のためのFD討論会を開いたが、極めて有益であった。遠隔授業を実施せざるを得ない状況が続く中、限られた条件を最大限に生かすうえで、有益な情報共有ができた。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	経済学部	学科等	経済学科・経営情報学科
--------	-----	------	-----	-------------

2. 部局の実施方針、方法

経済学部全講義を対象とする。その上で、経済学部教員は学期に1回、計年2回ピアレビューを実施することとし、新任教員がいる場合には年2回の内1回は新任教員の担当講義を見学することにより、新任教員研修も兼ねることとする。なお、実施に際して学科の区別はせず、一方の学科教員は他学科の授業を見学することも可能とする。他大学の授業聴講も可とし、また講義聴講という形でなくとも、模擬講義・演習の聴講等、幅広く可としている。今年度はコロナ禍において1学期は学部独自の実施は見送りとなった。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	全学FD委員会提供インタビュー動画第2弾	9		11			
2	ポスターセッション大会	4		12			
3	経営統計	1		13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

・対面授業，他教室への配信，オンデマンド配信という3形式同時進行で大変難しかったと思うが，オンデマンド授業については別途収録し，またiPadを用いて資料に書き込みながら授業するなど，すべてにおいて非常に工夫されていると感じた．
 ・既存の機材を活用したハイブリッド講義の進め方をわかりやすく解説していただいた．対面と遠隔受講を組み合わせるスキルについて，ゼミ実施にも応用が利く良いものであった．ハイブリッド講義の環境を整えるための試行錯誤，ご苦労についてよく理解できた．学外で実施しているプロジェクトで同様のニーズがあるので，ぜひ参考にしたい．また，アフターコロナにおけるハイブリッド講義の活用可能性やその際の授業設計の見直しの必要性等も先生方のおっしゃる通りと感じたので，こちらについても改めて検討していきたい．

5. 成果と課題

今回、コロナ禍への対応として急ぎよ、遠隔授業・ハイブリッド型授業が導入されることになった。各種研修、ピアレビューを通して情報共有が可能となった。また、共有された情報をもとに、各教員が意見交換する機会も得た。今回、得た知見や実践がアフターコロナにおける授業につながるよう、より密に情報共有をすすめていきたい。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	文学部	学科等	比較文化学科
--------	-----	-----	-----	--------

2. 部局の実施方針、方法

原則としてほぼ全ての講義（非常勤講師によるものを除く）はピアレビュー対象としていると同時に、特別講義の際には積極的にピアレビューを呼びかけている。また今年度は遠隔授業のピアレビューの実施についても参加を呼びかけた。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	英米の社会と文化 I	1	-	11			
2	比較表象文化	1	-	12			
3	地域文化資源演習	1	4	13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

1学期のピアレビューでは、遠隔授業で授業を組み立てる際の技術的な工夫に関するコメントが中心となったため、授業の改善提案はほとんどなく、主にレビューがさまざまなアイデアを得たことが記されることになったが、それもピアレビューの大きな働きの1つと言える。また2学期のピアレビューは実習授業について行ったため、実習ならではのさまざまな工夫についてレビューが受けた印象が細かく記されていた。レビュー対象となった授業は、今年度から開講されたものであり、今後学科で中心的な役割を果たしていくことが期待される講義であるため、レビューでの知見が来年度以降にも生かされることが期待される。

5. 成果と課題

今年度は、1学期には遠隔授業（オンデマンド講義とライブ講義の両方）のピアレビューが行われ、また対面授業が再開された2学期には対面で行われた実習のピアレビューが行われるなど、時宜にかなった中身の濃いピアレビューが行われた。特に遠隔授業のピアレビューを1学期に行ったことで、2学期の授業改善に役立ったと考えられる。ただし、ピアレビューの件数が少なかったことは反省材料である。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	文学部	学科等	人間関係学科
--------	-----	-----	-----	--------

2. 部局の実施方針、方法

本年度は、遠隔授業の導入による諸事情のため、1学期は実施できなかった。2学期には新しく採用された教員の授業をピアレビューの対象科目とした。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	社会意識論	4	108	11			
2				12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

【2学期：社会意識論】教員がパワーポイントに直接文字を書き込みながら授業を実践している点が非常に新鮮であり、ピアレビューに参加した教員全員がその点を高く評価していた。

5. 成果と課題

新任教員にとっては、自らの授業実践を振り返るための貴重な場となっていると思われる。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	法学部	学科等	法律学科
---------------	-----	-----	-----	------

2. 部局の実施方針、方法

法学部は、法律学科と政策科学科の2学科で構成されており、両学科ともに共通の実践を展開する事が多い。FDのピアレビューに関してもこの法学部の伝統に則り、各学期・各学科から1科目を選んでピアレビュー実施を行う事を原則としている。

2020年度に限っては前期に全学的なピアレビュー活動が展開されなかったこともあり、後期2学期のみのピアレビューとなった。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	刑事訴訟法II	1	2	11			
2				12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

授業内容の説明で、最初に刑事訴訟法についての全体像が説明された上でこの授業の位置づけが説明されていて、分かりやすいと思いました。

また、大学での授業の受け方や勉強の仕方にも触れて、学生に寄り添ったお話しをされていて、オンデマンドではあるものの、対面授業で話されているような雰囲気を感じることができました。また、話すスピードがゆっくりで分かりやすかったです。

5. 成果と課題

2020年度は新任教員のFDを中心に行った。オンデマンド授業体制における授業参観から得たFD上の学びをご共有いただく。Steam上の動画配信形式には、教員間のピアレビューを（制度的な枠組みを用意せずとも）促す側面もあると考えられる。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	法学部	学科等	政策科学科
--------	-----	-----	-----	-------

2. 部局の実施方針、方法

法学部は、法律学科と政策科学科の2学科で構成されており、両学科ともに共通の実践を展開する事が多い。FDのピアレビューに関してもこの法学部の伝統に則り、各学期・各学科から1科目を選んでピアレビュー実施を行う事を原則としている。

2020年度に限っては前期に全学的なピアレビュー活動が展開されなかったこともあり、後期2学期のみのピアレビューとなった。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	民主主義とは何か(政策教員担当)	2	120	11			
2				12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

スライドづくりの工夫+書き込みながらの録画など、資料作成/オンデマンド型講義の進め方の面で大変参考になりました。

授業の目的やこの授業で取り上げる内容のレベル(基礎~やや発展的内容)が最初に示されていて、受け手にとって分かりやすいと思いました。授業の構成も、最初に授業内容の説明、その後図表を用いた授業への導入~やや発展的内容へという形で分かりやすく、授業の流れの作り方も勉強になりました。

また、図表をパワーポで示して、それを説明していくスタイルは、とても聞きやすく、パワーポ・レジュメ・口頭での説明の使い分けの方法として参考になりました。

5. 成果と課題

2020年度は新任教員のFDを中心に行った。オンデマンド授業体制における授業参観から得たFD上の学びをご共有いただく。Steam上の動画配信形式には、教員間のピアレビューを(制度的な枠組みを用意せずとも)促す側面もあると考えられる。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	地域創生学群	学科等	地域創生学類
--------	-----	--------	-----	--------

2. 部局の実施方針、方法

7月8日～21日オンラインにて北九州市の企業によるキャリア研修会を実施した。北九州市の10社の企業がオンラインで企業説明および社会が求める人材像について学生向けに話をした。今年度は「コロナ禍における就職活動」についての説明会も実施した。また2月17日「コロナ禍における新しい研修方法を学ぶー街歩きフォトロゲイニングの紹介とその教育的効果ー」と題し見館好隆先生に講師をお願いし研修を実施した。これから新入生を対象に実施していきたい内容であり、全教員が方法や効果を把握することを目的とした。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	キャリア研修会	19	250	11			
2	地域創生学群FD研修会	15		12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

キャリア研修においては、対面であれば2社か3社しか話が聞けないところだったが、オンラインとなり多くの企業説明が聞けて良かった。また、コロナ禍の就職活動スタイルが聞けて良かった。2年次から説明会に参加できよかったなどの意見があった。地域創生学群FD研修会においては、「とてもいい活動だと思う。もっと工夫したらいいのでは。例えばごみ拾いしながら歩くとか」「新入生の交流および大学近辺を知るためにもとても効果的なものだと思う」「歩くことが難しい学生への配慮が必要」「地域を歩く際の安全面の確保」などの意見、質問があった。

5. 成果と課題

例年3年生向けに「キャリア研修会」を実施している。これには教員も参加し、企業が求める人材を把握し、授業やゼミおよび進路指導に生かしている。今年度はオンライン開催となったが、多くに企業を見ることができ、また2年生も参加可能となった。さらに相手に伝える動画作成・工夫も見られ、これからの広報活動やオンライン授業のスライド作成の参考にもなった。「街歩きフォトロゲイニング」においては今のところ新入生を対象に実施を考えている。早速来年度4月実施予定。効果としても、歩くことの身体的な効果、交流できる、大学近辺を知ることができる、など多く期待できる。課題としては、安全面の管理が挙げられる。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	国際環境工学部	学科等	エネルギー循環化学科
--------	-----	---------	-----	------------

2. 部局の実施方針、方法

遠隔講義の授業の中で、工夫して実施しているものを選びピアレビューする。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	有機化学Ⅱ	4	53	11			
2	大気浄化工学	6	107	12			
3	有機化学実験	2	51	13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

きれいなPPTで、適宜、ポインタやマーカーで説明しているので遠隔授業の学生も判りやすいと思いました。スライドに英語が混ざっているため、基礎知識の強化になりますね。ワーポイントスライドにペンで書き込みがされており、とても分かりやすいと思った。
シラバスに則って行っており、また冒頭に位置づけの説明がある。ppt資料は大変見やすく、理解しやすいものと思われる。
実験を遠隔で行うことの限界を感じるが、動画資料により工夫された内容となっている。内容がよくわかる優れた動画と思います。

5. 成果と課題

パワーポイントの作成を工夫しており、また説明も丁寧であり、遠隔であっても大変分かりやすい内容であった。高度な内容にもかかわらず、大変わかりやすい動画が作成されていた。聴講した教員にとってその後の遠隔講義において大変役に立つことが期待されるピアレビューになった。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	国際環境工学部	学科等	機械システム工学科
--------	-----	---------	-----	-----------

2. 部局の実施方針、方法

1学期は遠隔用のオンデマンド授業を参観するメリットを生かし全教員に自分の担当する授業を公開していただいた。教員によって興味を持つ授業は異なるため、参考資料として8月の段階で出ていた授業評価アンケートの満足度10位までの結果を知らせたうえで各教員は2つ以上をレビューしていただくこととした。2学期は今年から新設されたロボットを題材にしたPBL型の実習授業である環境機械創造演習を取り上げた。新しいテーマに加え、コロナ対策の下での対面と遠隔のMix形式のため、様々な観点からの意見を期待した。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	機械設計製図Ⅱ	2	36	11	情報処理学・同演習	5	52
2	伝熱工学・同演習	1	52	12	環境機械創造演習	7	47
3	機械設計法Ⅱ	2	51	13			
4	製図基礎・同演習	6	50	14			
5	微分積分Ⅰ	2	58	15			
6	工業材料基礎	4	50	16			
7	システム工学	3	47	17			
8	熱力学Ⅰ・同演習	1	58	18			
9	加工法実習	1	47	19			
10	工業力学	4	45	20			

4. 出された主な意見、コメント

各教員にとって問題意識や参考にしたい点などが異なるため、様々な意見・コメントがそれぞれの授業に対して得られた。

特に遠隔授業の場合にライブの授業の感覚をできるだけ損なわない工夫や、参考資料として動画やWebのサイトを紹介するなどの工夫が見られ、各自の参考になったとの意見が多く見られた。

また2学期に実施した環境機械創造演習に関しては、いろいろな道具を使った試行錯誤の取り組みを評価するコメントと、ロボット動作のために様々な分野に関係する内容であることから、現状のカリキュラムで不足している部分を見直す必要を指摘する意見が見られた。

5. 成果と課題

今年度は全部で12の授業を参観してもらうことが出来た。これは参観する側に選択する自由を提供したという意味で画期的なことだと考える。またMoodleでオンデマンド授業を公開したことから昨年度の反省にあった「1コマ全体を通して、あるいは学期間を通して行われている工夫などが見ることが出来ない」という問題が多くの部分解消できた。このような公開の仕方はコロナ禍収束後も有用である。来年度以降の実施形態にも工夫して取り入れてゆくべきだと考える。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	国際環境工学部	学科等	情報システム工学科
--------	-----	---------	-----	-----------

2. 部局の実施方針、方法

今年度はオンライン講義であることを鑑み、例年の学生評価の高い科目だけではなく、オンライン講義として工夫が見られるような講義を選択して、公開することとした。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	コンピュータシステム	2	77	11			
2	ネットワークとセキュリティ	5	72	12			
3	情報数学	4	76	13			
4	信号処理I	2	73	14			
5	線形システム解析	4	78	15			
6	システム制御II	3	48	16			
7	数理計画法	3	109	17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

公開した科目は全てオンライン講義科目であり、その中では、動画での声の聞きやすさなどが意見されていた。また、資料の見易さも例年以上にコメントされていた。

5. 成果と課題

手探りの中での講義運営としては、非常に良い状況であったと考えられる。しかし、その中で、オンラインの特性を生かした講義という状況には至っていないと判断される。来年度以降も一部にオンラインが残る可能性もあり、その点に関しては、更なる工夫が必要である。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	国際環境工学部	学科等	建築デザイン学科
---------------	-----	---------	-----	----------

2. 部局の実施方針、方法

各教員が授業公開あるいは参観を1回以上行う。
 参観者は、できるだけ研究分野の同じ教員が参加するように努め、助言を行うことにより具体性の高い授業改善を図るが、他分野の先生方の相互ピアレビューも行い、授業の分かりやすさも検討された

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	建築構造デザイン	6	47	11			
2	地域エネルギー論	6	55	12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

授業は構造分野全体に関する包絡的な知識を前提とした講義であるが、一部他の構造系科目と内容が重複する部分もあるとの意見があった。他の講義科目で何をどこまで学修しているかについて、次年度はもう少し詳しく把握した上で、講義内容の順番や補足する内容など、他科目のことも視野に入れながら準備できればと思う。また、スライドの情報量が多い印象を持ったという意見もあった。

授業回ごとにMoodle上に授業資料がよくまとめられている。講義の受講方法がStep毎に掲示されてとてもわかりやすかった。しゃべるスピードがゆっくりでわかりやすい。

毎回、A4一枚の感想や意見の提出は学生にとって少し負担に感じました。□

5. 成果と課題

アナウンスメントの部分で学生の質問とそれに対する教員の対応が確認できるが、質問も授業の内容についてしっかりと学ぶ姿勢を持ったうえでの質問であり、それに対する回答も丁寧で、双方向のコミュニケーションが活発に行われていることが伺える。

身近な部分を調査対象に設定しており、学生の理解を促すことに役立つと思った。

既存の教育リソースを有効に活用されている。

反省としては、演習課題の完成度がこちらが期待していたものよりも低かったので、中間エスキス、中間発表会を課すなどしてもう少しフォローアップした方が良かった。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	国際環境工学部	学科等	環境生命工学科
--------	-----	---------	-----	---------

2. 部局の実施方針、方法

- ・全教員が公開・参観のいずれかを行う。
- ・学生満足度が高かったオンライン講義に対してピアレビューを実施する。
- ・昨年度学生満足度が低かった科目に対してピアレビューを実施する。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	微生物学	11	128	11			
2	生理学	7	43	12			
3	環境シミュレーション	2	15	13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

- ・話すスピード、授業の進行スピードなどが適切。
- ・スライドが工夫されており、また1枚1枚の説明もしっかりと時間をとってわかりやすい。
- ・最初に前後の講義との位置づけの説明があり、わかりやすい。
- ・課題図書を読ませたり、講義の内容について課題を出したりと、課題にバラエティがあり、学生に飽きさせない工夫がされている。
- ・学生が個別のPCを使って演習を進めており、効果的に授業が進められている。また、質問やTA活用など学生が理解しやすい工夫がなされている。課題・宿題の解説も行われており、理解が深まる。

5. 成果と課題

- ・環境生命工学科の全教員が授業公開・参観を行うことができた。
- ・オンライン講義環境下で学生満足度が高い科目は、学生の参加意欲・理解度を上げるため講義動画がしっかり作られているのはもちろん、Moodleの課題なども含めて工夫がなされており他の教員の参考になった。
- ・学生満足度が低い科目も、学生の理解度を上げるための工夫がしっかりと行われていた。満足度が低かった理由は、授業方法の問題というよりは、科目自体が環境生命工学科の学生に対して少し難しいためと思われた。これについてはカリキュラムの問題として将来的に学科内で議論する必要がある。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	基盤教育センター	学科等	教養教育部門
---------------	-----	----------	-----	--------

2. 部局の実施方針、方法

本学における他の教員の授業を少なくとも1回ピアレビューするか、もしくは、自らの授業を1回ピアレビューしてもらう。なお、本報告書には、地域創生学群(教養・情報教育部門に所属する教員の半数が兼任)におけるピアレビューに参加した教員については記載しない。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	安全保障論	1	不明	11			
2				12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

・オンデマンドで配信された授業動画は、放送大学形式とというよりは、YouTube慣れした学生を意識した作りとなっており、対面授業とオンデマンド授業という形式の差が強く意識されていた。対面授業をそのままオンデマンド化するのは、オンデマンド動画授業の強みを生かしていないことがよくわかった。来年度も遠隔授業を担当するので、自分の授業内容をどのようにメディアにあわせて伝えるか深く考えるきっかけとなった。

5. 成果と課題

出された主な意見、コメントを見ると、オンデマンド配信された講義ビデオの質が、遠隔等授業の評価に直結することが伺える。YouTubeをはじめとする動画配信サービスが隆盛を迎える現在において、多くの学生は、視聴者を意識して編集された動画を見慣れている。そのため、単に教員が説明している内容を録画したビデオではなく、学生を意識して編集した動画をいかに作成できるかがポイントになってくる。

しかし、動画を編集するためには、多くの時間と労力を要する。許された時間と労力の中で、どれだけ動画編集に力を入れることができるか。教育効果との兼ね合いから探ることが求められる。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	基盤教育センター	学科等	語学教育部門
--------	-----	----------	-----	--------

2. 部局の実施方針、方法

遠隔授業実施のため当初方針から以下のように変更した。まず、1学期の授業アンケート結果から5名の教員を選び、所属教員が彼ら/彼女らの授業動画を視聴してもらった。その上で部局内FD研修を(2/17(水))実施して、前述の5名の教員に自身の授業内容や工夫している点に関して情報提供してもらった。その後、所属教員を交えた質疑応答の機会を設けた。本研修の参加者は27名であった。この研修とは別に、各教員が自身の授業における工夫や困りごとをアンケート形式で回答してもらった。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	朝鮮語Ⅲ (金貞愛)	22		11			
2	Communicative English I (杉山智子)	23		12			
3	英語 I (筒井英一郎)	18		13			
4	世界 (地球) 特講A (戸蒔仁司)	22		14			
5	Communicative EnglishⅢ (ダニー・ミン)	15		15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

- ・受講学生を飽きさせない工夫をしていた授業運営だったと思う。
- ・授業内での失敗談も交えた授業報告をしていただきありがたかった。
- ・部局内でのピアレビュー研修を実施することで、いつもよりも本音で質問できる部分が多くなるので参考になる。
- ・それぞれ全く異なったアプローチで大変参考になりました。共通するのは学生目線で丁寧に作っているということですね。

5. 成果と課題

部局内のピアレビュー研修について、事前に授業動画を視聴した形にしたおかげでリアルタイムでの質疑応答を含め有効的に時間を使えた。通常の授業形態[講義型/演習型]や授業規模[少人数/大人数]の違いがありながらも、各自で実施可能な授業改善のヒントが見つけれられたのではと思う。なお、今回は部局内FD活動の一環としてMS Forms機能を使って多くの所属教員が自身の授業を振り返る機会を作った。今後は、そこで得られた共有情報を使いながら、より多くの参加者が発言できるようなピアレビュー活動ができればよいと思った。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	基盤教育センター	学科等	ひびきの分室
---------------	-----	----------	-----	--------

2. 部局の実施方針、方法

例年、授業公開日をひびきの分室教員で共有し、教員が任意に連絡を取りながらピアレビューを行っていた。今年度は、年間を通して遠隔授業が実施されたため、教室を訪問しての授業見学を実行することができなくなった。そこで、授業見学希望者は、担当講師と個別に協議し、当該授業回のStream、Moodleへのアクセスを許可してもらい、授業動画や関連活動を参照するという形で、ピアレビューを実施した。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	英語Ⅲ (10月28日)	1	35	11			
2	考え方の基礎 (11月27日)	1	59	12			
3	英語Ⅳ (11月13日)	1	25	13			
4	経済入門Ⅱ	1	160	14			
5	考え方の基礎 (12月4日、12月11日)	1	59	15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

遠隔授業という形態で、いかに受講生の学習意欲を持続させるかという点で、さまざまな工夫を取り入れている授業が多かった。

5. 成果と課題

評価が様々だとしても、遠隔授業の実行に当たり、多くの教員が多大な労力を費やした1年となったことは事実である。遠隔授業で行ったさまざまな仕掛けを、次年度以降にどのように活用していくのか、対面授業が実現した場合でも取り入れるべき点があるかということ、さらに考えていく必要がある。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	マネジメント研究科	学科等	
--------	-----	-----------	-----	--

2. 部局の実施方針、方法

- ・基本的にどの講義も教員がお互いに自由に聴講できるという了解のもとで運営している。ただしマナーとしては、事前に担当教員に連絡することを申し合わせている。
- ・今年度のピアレビューは、基本的にはFD委員3人が分担して、新任教員の担当講義・新規開講講義を対象に実施した。
- ・ピアレビューの結果は、FD委員会で報告し教育内容・方法の改善を図ることとしている。
- ・また、平成26年度からは、本ピアレビュー結果を授業アンケート結果とともに対象となった講義担当教員に送付することとしている。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	ビジネス中国語	2	5	11			
2	マネジメント・アカウンティング	2	8	12			
3	中国ビジネス	2	6	13			
4	イノベーション戦略	2	12	14			
5	モノづくり競争力の強化	2	8	15			
6	医療・福祉・教育の現場	2	3	16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

- ・資料の充実
- ・教員自身のビジネス経験などに基づいた解説やケース
- ・最新のトピックやデータを用いた実践性
- ・アクティブ・ラーニングの要素（グループ・ワークやボードゲーム）を取り入れていること
- ・双方向性などの工夫がもう少し欲しい
- ・課題やゲームのルールについて理解不足の学生へのフォロー

5. 成果と課題

- ・新任教員の方々の講義は、いずれも充実した資料を作成していただいた上で、経験を踏まえた解説やコメントなど丁寧な講義をされていた。今後はより双方向性を高めるような工夫をすることで、さらに充実したものになると思われる。ピアレビューや授業アンケート結果のフィードバック、FD研修などを通じて授業改善に努めていただくとともに、FD委員を中心に個別にインフォメーションを与える。
- ・今年度は遠隔講義（zoom）・対面授業・ハイブリッド講義を実施した。これらの方法の適切な組み合わせなどを検討していきたい。
- ・近年の傾向である学生の多様化への対応などを含めた講義・カリキュラムの検討が課題である。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	社会システム研究科	学科等	
--------	-----	-----------	-----	--

2. 部局の実施方針、方法

(1) 方針：「社会システム総合概論」をピアレビュー科目として設定する。
 本科目は、「東アジア」「文化言語」「地域コミュニティ」「現代経済」専攻の教員（各1名）によるアクティブラーニング形式の授業である。科目の目的は、専門領域にのみ関心が向きがちな大学院生に各専攻の枠を超えた複合領域的な視点と発想を持たせることにある。その実践を改善するとともに、同様の視点を指導教員も確認する。

(2) 方法：院生が本科目の実施形式に慣れた段階（1学期後半）で各専攻からの教員によって実施する。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	社会システム総合概論	4	12	11			
2				12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

・「アカデミック・スキル」について担当教員が個人的な体験談を交えながら、わかりやすくまた丁寧に解説を行った。これから研究に取り組む大学院生にとって非常に有意義な内容だったと考える。オンデマンドの動画による講義をパソコンで見る形式は今回初めてであったが、全く問題なかった。・やはりこのような科目は一方的なオンデマンドではなく、受講生の反応を見ながら、細かにやりとりをしながら授業をしたいものだと感じました。・自分の授業動画（パワーポイントへの音声吹き込み）は、ファイル容量が大きくなるので、講師の顔が映らないように作成していたのですが、やはり講師の顔が見えたほうが良いと感じました。大学全体として、サーバーの容量を上げることがぜひ検討して頂きたいと思います。・The professor gives good details and explanation about each area.

5. 成果と課題

(1) 成果：講師が顔を出して語りかけることによって遠隔授業でも印象的な授業となったという感想が得られた。

(2) 課題：本年度は遠隔授業で行わざるを得なかったため、受講生の反応を確認できなかった。

2020年度 ピアレビュー報告書

1. 部 局	学部等	法学研究科	学科等	
--------	-----	-------	-----	--

2. 部局の実施方針、方法

平成29年度より法学研究科でもピアレビューを適切に実施することとしているが、現実問題として在籍している院生数が少なく加えて論文指導科目はピアレビューに適さない。よって各学期で1科目のみ実施することとしている。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、体系的ピアレビューは行えず、前期に法律系教員と政策系教員の双方が集う合同授業の実践を展開したのが実質的なピアレビューとなった。

3. 実施授業

No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)	No	授 業 名	参加教員 (人)	学生数 (人)
1	法政総合演習	2	13	11			
2				12			
3				13			
4				14			
5				15			
6				16			
7				17			
8				18			
9				19			
10				20			

4. 出された主な意見、コメント

例年実施している科目ではあるが、この回においては、二人の教員（中井・大澤）がそれぞれ同時かつ相互にそれぞれの学問枠組みを受講生に対し提示した。二人の教員はそれぞれマテリアルの提示の仕方も異なり、相互に異なる手法とそれぞれの利点（学問特性に合わせた手法）があることを、教員自身のみならず大学院生に対しても示す契機となった。

本科目法政総合演習では、すべての大学院科目担当教員が、moodle上において各担当教員それぞれ授業資料を相互参照できるようにした。そのため、今回に限らず、法律学科・政策学科双方の教員にとって教育マテリアルや手法を相互参照できるよい契機となっていた。

5. 成果と課題

上のコメントと重複するが、今回に限らず、授業担当教員全員が相互の授業マテリアルと手法を相互に参照できる契機となり、それぞれが新たな手法や教育上の工夫を取り入れる良い契機になっていたと想定される。特に法律学科教員と政策学科教員は、学部レベルでは相互交流することがあっても、大学院レベルでの交流はこれまでほとんどなく、その教育手法の相互参照が行われたのはきわめて好ましい事であったと解する。

4. FD 委員会について

(1)活動一覧

<FD委員会>

日程	回	内容
6月17日 (メール会議)	第1回	【議題】 1. 委員構成について 2. 1学期ピアレビューについて 3. 授業評価アンケートについて 【報告】 1. 2020年度FD活動の推進予算配当結果について 【その他】 1. 2019年度FD委員会開催予定
11月25日 (Web会議)	第2回	【議題】 1. 2021年度FD活動の推進予算について 2. 1学期ピアレビュー実施報告及び2学期ピアレビューについて 3. 2学期授業評価アンケートについて 4. 2020年度FD研修の実施について 【報告】 1. 各WGの進捗状況について 【その他】 1. FD図書購入希望について
3月24日 (Web会議)	第3回	【議題】 1. 各WGの活動状況について 2. 授業評価アンケート学生意見(コメント)の削除について 3. 2021年度春季新任教員研修について 4. 2020年度FD活動報告について 5. 2021年度FD活動計画について 【報告】 1. 2学期ピアレビュー実施報告について 2. 2021年度FDアドバイザーについて 【その他】 1. 2021年度新規採用教員に係るメンターの専任について(依頼) 2. 中溝FDアドバイザー退任のごあいさつ

<研修・講演会等>

日程	項目	講師等
4月10日	全学FD研修 授業における感染予防対策	松尾 太加志 学長
9月24日	ハイブリッド型授業の現地研修	15 ページ参照
12月23日	全学FD研修 FD研修及び危機管理研修	19 ページ参照

(2) 委員構成

2020年度のFD委員会は委員長1名、副委員長1名、委員16名、アドバイザー1名で構成される。

役割	氏名	所属	職名
委員長	柳井 雅人	経済学部経済学科	教授
副委員長	高橋 衛	法学部法律学科	教授
委員	齊藤 園子	外国語学部英米学科	教授
委員	胡 玉華	外国語学部中国学科	教授
委員	李 東俊	外国語学部国際関係学科	准教授
委員	畔津 憲司	経済学部経済学科	准教授
委員	別府 俊行	経済学部経営情報学科	教授
委員	高山 智樹	文学部比較文化学科	准教授
委員	田中 信利	文学部人間関係学科・社会システム研究科	教授
委員	岡本 舞子	法学部法律学科	講師
委員	中井 遼	法学部政策科学科	准教授
委員	山本 浩二	地域創生学群	准教授
委員	寺嶋 光春	国際環境工学部エネルギー循環化学科	准教授
委員	高 偉俊	国際環境工学部建築デザイン学科	教授
委員	永末 康介	基盤教育センター	准教授
委員	浅羽 修丈	基盤教育センター	教授
委員	池田 隆介	基盤教育センター（ひびきの分室）	教授
委員	高橋 秀直	マネジメント研究科	准教授
アドバイザー	中溝 幸夫	FDアドバイザー	教授

2020年度 北九州市立大学 FD 活動報告書

2021年3月発行

編集・発行 北九州市立大学 FD 委員会

〒802-8577

福岡県北九州市小倉南区北方四丁目2番1号